第 27 週―臨在[供え]のパンの机

鳥瞰	わたしたちはみなキリストから養いを得ること、彼を 取り入れること、彼を霊の食物として享受することを 学ぶ必要があります。臨在［供え］のパンの机が表徴しているのは、キリスト が食物また宴席として、神の祭司としての信者たちを 養うということです。神の啓示の順序によれば、臨在［供え］のパンの机は （契約の）箱の後に来ました。これは、箱の経験が机となることを暗示しています。臨在［供え］のパンの机は、幕屋の内側の聖所の中に置かれました。これは召会の建造において臨在のパンの机を享受することを示します。聖所の中にある机の上のパンは、御顔のパンとも呼ばれています。それは彼（神）の臨在の中にいることであり、また並べられたパンとも呼ばれ、神の御前で命の供給として経験してきたキリストを陳列することです。	
	真理要点	経験適用
1日	1.わたしたちが務めをする時にいつも注意しなければならないことはなにですが？ 2．主の回復とは召会の建造のためにイエスを食べることであることを説明してください。	1. わたしたちはキリストを他の人たちに供給するとき、わた したち自身も彼で養われます。わたしたちが他の人たちを養うとき、わたしたちは養われます。わたしが務めをするときはいつでも、養われる最初の人はわたし自身です。わたしは務めをした後、満足し ます。わたしは他の人たちにキリストを供給することによって満足します。 2．主は召会の建造に関するご自身の預言を成就しようとしています。この預言はイエスを食べることによって成就されます。食べることが結合させます。食べることが一を保ちます。食べることが建造します。あなたは食べる事柄において正しいなら、確かに結合されるでしょうし、結合しつつさえあるでしょう。あなたは建造されている人であり、他の人たちを建造している人です。
2日	1．机はキリストが神の祭司の宴席の表徴であることを説明してください。 2．マナの毎日の供給と机の毎週の供給との違いはなにでしょうか？	1．臨在［供え］のパンの机は、神の祭司のための宴席としてのキリストを表徴します。祭司は聖所の中にいるように資格づけられた唯一の人たちでした。……この机が外庭に設けられたのではなく、幕屋の中に設けられたことは意義深いのです。この机に陳列されたパンを食べた者はみな祭司でした。こういうわけで、机はキリストが神の祭司のための宴席であることを表徴しています。 2．マナの日ごとの供給は、わたしたちの生活のためです。机からの週ごとの供給は、わたしたちが生活するだけでなく、主に仕えることができるようにします。それ(机)はわたしたちを供給し、わたしたちに仕える生活を持たせます。マナによって、わたしたちは生きるための命の供給を持ちます。机によって、わたしたちは仕えるための命の供給を持ちます。
3日	1．証の箱が経験の中で臨在の机のとなることを説明してください。 2．臨在のパンの机と、証しの箱の高さが同じ 1 キュビット半であることはなにを表徴していますか？	1．わたしたちが箱の罪を覆う蓋、わたしたちのなだめの場所としてのキリストを持つとき、最終的に箱が机となることは霊的な経験の事実です。このキリストは、神の証しであり、神の具体化また表現です。彼は机となり、また食物ともなって、わたしたちは食べて 享受し、養いを得ることができます。 2．仕える祭司としてのわたしたち に対するキリストの養いは、神の証しの標準に符合しています。もしキリストに対するわたしたちの享受が、箱の高さによって表徴されている神の証しに達していないなら、わたしたちの享受は完全ではありません。それはある面で欠陥があり、標準以下です。大半の場合、神の標準に達していません。
4日	1．臨在のパンが幕屋の聖所の中の机の上にあることは何を表徴しますか？ 2．机が幕屋―神の住まいの中にあることを経験面から解釈してください。	1．これが表徴するのは、神の祭司の食物としてのキリストが、神の住まいの内側での団体的な食べ飲みのためであるということです。召会の集会で、わたしたちはキリストの特別な享受を持ちます。集会から遠ざかっている人たちは、他の面でキリストを享受するかもしれませんが、この享受を持っていません。 2．仮にある信者たちが週ごとに共に集まっていても、彼らの間に何の建造もないとします。彼らが実際的な方法で共に建造されていない限り、彼らは机の経験を持つことはできません。なぜなら、机は神の住まいである幕屋の内側に置かれているからです。わたしはキリストと召会に対する経験から、この机は幕屋の内側でのみ、すなわち建造された聖徒たちのただ中でのみ見いだされることを学びました。
5日	1．机が金で覆われていたことの意義を説明してください。 2．わたしたちは、どのようにして臨在のパンの机の所で養われるのでしょうか？	1．机が金で覆われたという事実は、神の表現、キリストの神性を表徴します。キリストの内側で、彼の人性はわたしたちの享受のためです。神の表現としての彼の神性があります。わたしたちがキリストを享受するなら、神を表現します。わたしたちが主イエスを神に仕えるための供給として享受するとき、その結果が金、すなわち神の表現としてのキリストの神性であるということです。 2．わたしたちは項目ごとにすべての欠点を告白し、しばらくの間、祭壇にとどまらなければなりません。それからわたしたちは、わた したちを清めるために贖う血を適用します。　血を適用することから、わたしたちは臨在［供え］のパンの机でキリストから養いを得ることに向きを変えます。そこにおいてわたしたちはキリストから養いを得て、彼を享受して味わいます。わたしたちは彼を食べるだけでなく、吸収します。これも同じ様にいくらかの時間を取ります。
6日	1．民数記第六章 25 節の「顔」は何を表徴しますか？ 2．祭司は聖所の中でパンを陳列することは何を表徴しますか？	1. 「御顔」という言葉は臨在を表徴します。御顔をわたしたちの上に輝かす方として、子なるキリストは目に見えない神の目に見える臨在です。神と彼の臨在は目に見えませんが、彼の肉体と成ることを通して、彼は輝く太陽となりました。この輝く太陽は、神の目に見えない臨在が目に見えるようになることです。 2．これは、キリストがわたしたちの内側で命であるだけでなく、わたしたちの命の供給でもあることを表徴します。わたしたちはキリストをわたしたちの内側の命の供給として経験するとき、神の御前で経験してきたキリストを陳列して、神と人への命の供給とすることができます。祭司はまた供えのパンを陳列するために、どのようにして聖所に 入るかも学ばなければなりませんでした
まとめ	神のエコノミーは、わたしたちがキリストを食べ、彼で構成されて、彼の団体の表現となることです。主の回復とは、イエスを食べて召会を建造することの回復です。二種類の食べることを認識する必要があります。すべてのイスラエルの民が荒野で彼らの生活のためにマナを食べました。また臨在のパンはただ幕屋の中で供給されました。 聖所の中で神の臨在の中にいる祭司によってのみ享受されました。それは彼らが生活することができるようにするためだけではなく、神に仕えることができるようにするためです。わたしたちが召会の中で他の信者たちとともに建造されるために、わたしたちの養いと享受としての臨在のパンの机があります。	